

市の現状と中期基本計画概要について



富士見市マスコットキャラクター
「ふわっぴー」

1 総合計画とは何か

(1) 総合計画とは

- ①市の全体計画です
市が目指すべきまちづくりの方向性を示した「設計図」です。
- ②10年間の計画です
現在は平成23～32年度の10年間の計画です。
- ③市民のみなさんに関わる計画です
福祉、教育、基盤整備など様々な分野に関する取組みを定めています。
- ④3層構造になっています
総合計画は、基本構想、基本計画、実施計画で構成されています。

(2) 計画の構成と期間

- ①基本構想 将来都市像や分野別の目標などを定めた10年間の計画
- ②基本計画 基本構想を実現するため、具体的な取組みを体系的に定めた5年間または4年間の計画
- ③実施計画 基本計画で定めた取組みを、財政状況などを踏まえて実施するための3年間の計画（毎年見直します）

《計画の構成と期間》

H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
第5次基本構想（10年間）									
基本計画（前期5か年）									
			基本計画（中期5か年）						
						基本計画（後期4か年）			
実施計画（3か年）									
実施計画（3か年）									
実施計画（3か年）									
毎年見直し		毎年見直し							

2 これまでの基本構想

昭和47年に市になって以来、5度にわたって基本構想を定め、計画的にまちづくりを推進してきました。基本構想の歩みは、まさに「富士見市の歩み」です。

<将来都市像の変遷>

<主な取組み内容>

◎第1次基本構想

『明るい豊かな生活、文化的な機能を持った住宅都市の建設』

人口の急増に対応するため、区画整理などの基盤整備のほか、学校や保育所などの教育・福祉施設の整備を重点的に進めました。

◎第2次基本構想

『住宅と産業の調和した緑あふれる文化都市』

産業面を強化するため、工業団地の造成や駅周辺の商業振興のほか、都市としての主要機能の整備を進めました。

◎第3次基本構想

『ふれあいと生きがいのある生活都市』

人口増加もゆるやかになり、図書館や水子貝塚公園の整備など、市民生活にうるおいをもたらすまちづくりを進めました。

◎第4次基本構想

『一人と自然— ふれあいと思いやりあふれる生活環境都市』

学校の耐震化や保育所などの子育て支援施設の整備など、社会情勢の変化に対応したまちづくりを進めました。

昭和47年～昭和56年	小学校3校・中学校3校開校 保育所5か所開所 富士見養護学校開校、みずほ学園開園 健康増進センター開所 老人福祉センター開所 みずほ台駅開設
昭和57年～平成2年	針ヶ谷小学校、水谷中学校開校 コミュニティセンター2館開館 市民総合体育館開館 市民プールオープン 富士見養護学校の教育ゾーンへの移転新築 竹ノ内工業団地の整備
平成3年～平成12年	ふじみ野小学校開校 中央図書館開館 市内循環バス運行開始 ふじみ野駅開設 水子貝塚公園・難波田城公園開園 土地区画整理事業の推進（ふじみ野駅周辺など）
平成13年～平成22年	市民文化会館キラリ☆ふじみ開館 つるせ台小学校統合新設 ふじみ野保育園開所 文化の杜公園開園 びん沼自然公園開園 ふじみ野交流センター・鶴瀬西交流センター開館

3 現在の総合計画（第5次基本構想）をつくるにあたって

（1）市民参画による計画づくり

平成16年に制定した自治基本条例に基づき、市民の皆さまとともに考え、ともに作りあげる計画を目指しました。

《市民による検討組織》

基本構想審議会	有識者など市民12人により審議（14回開催）
基本構想策定 ふじみ市民会議	公募を含む市民40人による検討（29回開催）

《市民の意見を伺う機会》

21年7月	市民意識調査	市民3,000人を対象に実施
22年2月	地域別懇談会	7会場にて開催（214人参加）
22年5月	分野別懇談会	3分野について開催（105人参加）
22年5月	中学生未来会議	市内の中学生16人参加のもと開催
22年9月	地域説明会	7会場にて開催（236人参加）
22年9月	市民意見の募集	総合計画（案）を公表し、広く意見を求めました（33件の意見）

4 第5次基本構想に基づく取組み

（1）富士見市が目指す将来のまちの姿（将来都市像）

ひととまちがキラリとかがやく
市民文化交流都市
～人と人との絆と和 地域が主役のまちづくり～

市民（ひと）がまちづくりの主体となり、市民同士や市民と行政がお互いに連携し、支え合うことで、活気や笑顔にあふれ（キラリとかがやく）、誰もが安心して暮らせるまちづくりを進めていこうという思いを込めました。

また、人と人とのふれあいの輪（和）を広げることで地域の和を深め、地域が主役となって身近な課題などに取り組み、『住み続けたい、住んでみたいまち』を創っていくことを目指すものです。

なお、「キラリ」は、本市の地域資源を活かすことによるまちの個性の輝き、河川（荒川・柳瀬川・新河岸川）の水面の輝き、市民文化会館キラリふじみを表しています。

<※要約（全文は中期基本計画冊子155ページ参照）>

(2) 分野ごとの主な取組み

将来都市像の実現に向け、6つの分野ごとに様々な取組みを進めています。

①子育て支援・子どもの教育などに関する分野

○いじめ対策の推進

平成26年度制定の「いじめ防止条例」に基づき、いじめ問題対策連絡協議会やいじめ対策事業協力者認定制度の創設など、いじめ防止に向けた取組みを推進

○保育環境の充実

幼稚園と保育所の機能を持った「認定こども園」の開設、小規模保育施設での保育提供、ふじみ野地区に新設予定の民間保育園（定員：90名）の整備補助
※保育所待機児童：10名（平成27年4月現在）

○放課後児童クラブの充実

対象学年の拡大（小学4年まで→小学6年生まで）など入室申請数の増加に伴い、鶴瀬・勝瀬・水谷の放課後児童クラブの施設整備
※放課後児童クラブ待機児童：0名（平成27年4月現在）

○児童館の充実

児童の健全育成と子育て支援の充実を図るため、ピアザ☆ふじみ（ふじみ野駅東口）内にふじみ野児童館を開設（平成27年5月）

○子どもの体験活動の充実

「子ども大学☆ふじみ」「子どもスポーツ大学☆ふじみ」の継続開催に加え、「子ども文化芸術大学☆ふじみ」を開校

○小学校合唱部への指導者派遣

小学校の合唱部の活性化と水準向上をめざした声楽の専門家等の指導者派遣

○学校施設の整備

- ・大規模改造工事（鶴瀬小、南畑小）・プール改修工事（水谷小、水谷東小）
- ・エレベーター改修工事（針ヶ谷小、勝瀬中）など

○市長と教育委員会の連携強化

市長と教育委員会が連携を強化し、教育行政の方向性を共有するための「総合教育会議」を設置

②健康づくり・医療・福祉などに関する分野

○食育の推進

ピアザ☆ふじみ内の食育推進室を活用して、女子栄養大学や食生活改善推進員などとの連携による食育推進事業を展開

○健康増進計画の策定

生涯にわたっての健康づくりを推進するため「健康ライフ☆ふじみ（富士見市健康増進計画・食育推進計画）」を策定

○高齢者あんしん相談センターの強化

相談者の要望へ迅速に対応できるように、認知症地域支援推進員の配置など高齢者あんしん相談センター（地域包括支援センター）の職員体制を強化

○「あいサポート運動」の普及啓発

障がいのある方が暮らしやすい”共生社会“の実現を目指し、障がい者に対する理解を促進するため「あいサポート運動」を推進

○手話言語条例の制定

手話に対する市民の理解を深め、広く普及していくために「富士見市手話言語条例」を制定

○災害時要援護者のための防災用品等の充実

- ・障がいのある方向けに緊急連絡先や支援内容を記入できるヘルプカード配布
- ・聴覚障がいのある方に障がいがあることを周囲に知らせるバンダナ配布

○生活困窮者への自立支援

生活困窮者に対する自立支援相談を行う「生活サポートセンター☆ふじみ」の開設や生活困窮家庭の中学生・高校生への「学習支援事業」を実施

③生涯学習・文化などに関する分野

○市民向けコンサートの開催

陸上自衛隊音楽隊によるコンサートや若手演奏家によるクラシック音楽のコンサートを市民向けに開催

○市民文化会館「キラリ☆ふじみ」の改修

- ・空調設備オーバーホール（分解点検修繕）
- ・マルチホール音響設備更新工事

○公民館、交流センター、コミュニティセンターの改修

- ・給排水管等の更新工事（鶴瀬公民館）
- ・空調設備の更新工事（南畑公民館・針ヶ谷コミュニティセンター）
- ・空調設備オーバーホール（ふじみ野交流センター）

○中央図書館のサービス向上

月曜日が祝祭日の場合の開館や、平日の1時間開館延長を実施

○水子貝塚公園・難波田城公園の整備

- ・水子貝塚公園 竪穴住居（復原住居）の改修 など
- ・難波田城公園 民俗資料収集庫の修繕 など

○スポーツ推進計画の策定

中・長期的な市のスポーツ施策の方向性を明らかにする「スポーツ推進計画」を市民参加で策定

④農業・商工業・地域活性化などに関する分野

○地産地消の推進

女子栄養大学との連携による地元農産物を使用した加工品の開発やららぼーと富士見での地元農産物販売イベント、農業マップの作成など、地元農産物の消費拡大による地産地消の推進

○農業体験機会の充実

ららぼーと富士見やJAいるま野と協働して開催する親子ふれあい農業体験の開催

○商店街の活性化

プレミアム30%付き市内共通商品券発行、地元商店とららぼーと富士見との連携を図る「にぎわいづくり事業」への支援 など

○住宅リフォーム費用の助成

市内業者による住宅リフォーム工事に対する助成（助成上限額：10万円）

○地域活性化の推進

桜のオーナー制度による河津桜の植樹、マスコットキャラクター「ふわっぴー」の活用、サイクリングコースの整備、地域活性化研究会（愛称:ふじみ☆ラボ）の結成 など

⑤防災・防犯・まちづくり・環境などに関する分野

○自主防災組織の育成支援

運営費補助、地域における防災リーダー育成講習会の実施、各防災組織をつなげる連絡会への支援 など

○富士見市総合防災訓練の実施

大規模災害発生時の体制を想定し、市民、自主防災組織、企業、消防組合、消防団及び市による総合防災訓練を実施

○防災行政無線のデジタル化の推進

アナログ方式からデジタル方式への移行と難聴地域の解消

○公園整備事業

- ・南むさしの公園（ふじみ野西2丁目）の整備
- ・文化の杜公園のアスレチック遊具の更新
- ・緑の散歩道「関沢」の用地取得 など

○道路の安全性向上

- ・標識や反射鏡、道路照明灯などの更新
- ・通学路のグリーンベルト新設 など

○地域公共交通会議の設置

市民、バス事業者、警察などの関係機関により、市内循環バスを含めた交通体系を検討する地域公共交通会議を設置

○地球温暖化防止対策の推進

- ・住宅用太陽光発電システム設置に対する補助（助成額：1件5万円）
- ・公共施設の壁面緑化、低燃費の公用車導入 など

⑥市民自治・協働・行革などに関する分野

○ふじみ野出張所の移転

ふじみ野出張所をふじみ野駅構内からピアザ☆ふじみに移転し、他の出張所と同様に市税の収納や異動手続きが可能となるなど利用者の利便性を向上

○地域まちづくり協議会への支援

地域まちづくり協議会の組織化に向けた支援や既に組織化された団体が行う各種事業に対しての助成

○協働事業提案制度の創設

多様化した市民ニーズへ効果的に応えるため、市民からの提案事業を市民と行政で協働して行う協働事業提案制度を創設

○行財政改革の推進

・電気料金の削減

公共施設へのPPS（特定規模電気事業者）導入や庁舎事務室の照明LED化

・自主財源の確保向上

公共施設への自動販売機設置貸付料収入や各種広告媒体の活用による収入
まちづくり寄附（ふるさと納税）へのクレジット決済導入

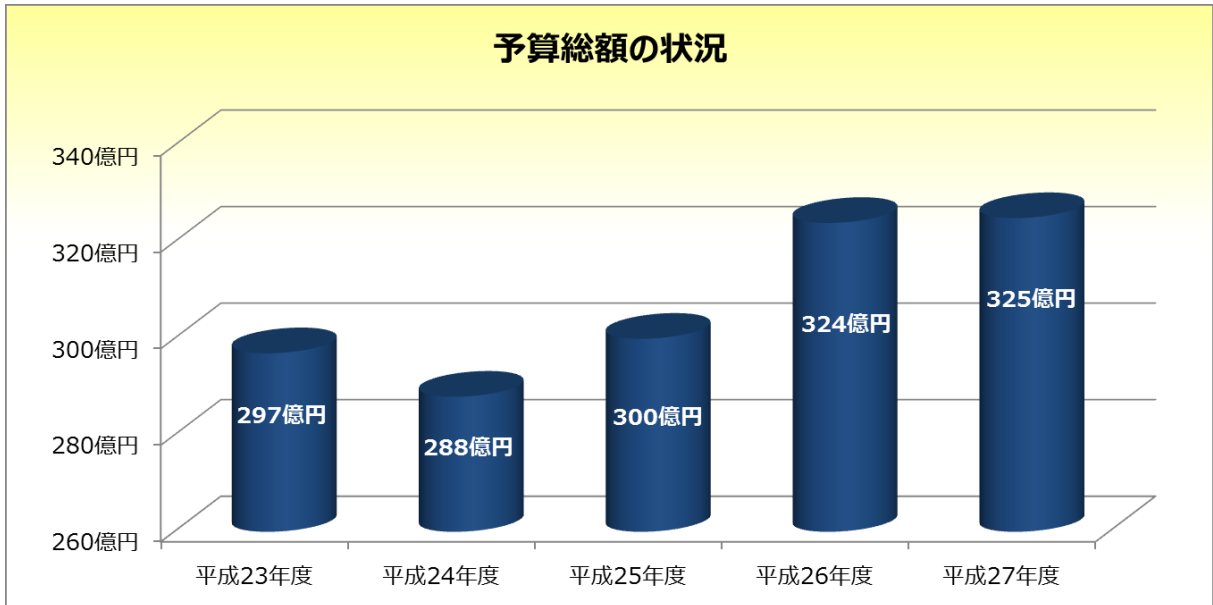
・ゼロ予算事業

日常生活や買い物などに不自由を感じている方などを支援する宅配電話帳を作成、いつでもどこでもスマートフォンで広報が見られるi広報紙を導入

5 平成27年度の予算の状況

◇予算総額

平成27年度の一般会計の予算額 **324億6,080万2千円**



子育て支援施策をはじめとした社会保障費や学校大規模改修等の施設長寿命化経費の増加により、過去2番目に大きな予算となりました。

過去最高の予算額は、市民文化会館キラリ☆ふじみやふじみ野交流センターの建設費用などを計上した、平成13年度の予算額329億8,789万8千円です。

◇収入の状況

市税は140億9,979万2千円と見込み、前年度と比べ663万8千円の増となり、過去最大の税収規模となりました。

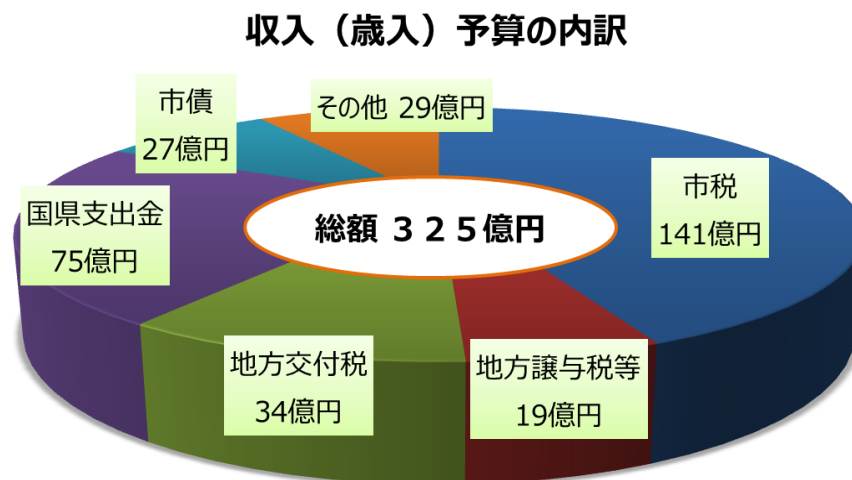
主な要因として、個人市民税は、納税義務者数は伸びるものの普通徴収から特別徴収への切换の影響※2 などにより前年度と比べ1,114万円の減、法人市民税は、法人税割の税率引下げの影響などにより前年度と比べ4,014万5千円の減、市たばこ税は、売り渡し本数の減少を見込み前年度と比べ3,728万6千円の減となりました。一方で、固定資産税は、評価替えによる影響のほか家屋の新築棟数の増加などにより前年度と比べ6,706万8千円の増、都市計画税も固定資産税と同様の理由により前年度と比べ2,285万1千円の増となり、これまで積極的に進めてきた都市基盤整備をはじめとした新たなまちづくりの取り組みの成果が現れています。

地方消費税交付金は、消費税率 8%への引上げによる影響の平年度化に伴い 13 億 9,000 万円と見込み、前年度と比べ 5 億 1,700 万円の増としています。このうち社会保障財源化分は 6 億 5,200 万円となっています。

地方交付税は、地方財政計画やこれまでの交付実績等を踏まえ 34 億円を見込み、前年度と比べ 1 億円の減としています。

国県支出金は、75 億 2,568 万 4 千円となり、前年度と比べ 4 億 746 万 8 千円の減となりました。主な要因としては、ピアザ☆ふじみなどの整備に係る都市再生整備計画事業費交付金が前年度比 2 億 7,036 万円の減となったためです。

市債（借入金）は、27 億 3,540 万円となり、前年度と比べ 1 億 8,990 万円の増としています。



◇支出の状況（性質別の分類）

扶助費は87億2,105万1千円となり、前年度に比べ4億8,895万6千円の増となっています。これは、子育て支援対策をはじめとした社会保障費の増によるものです。

普通建設事業費は34億6,749万円となり、前年度に比べ4億9,501万5千円の減となっています。これは、ふじみ野出張所等公共施設整備の皆減などによるものです。

支出（歳出）性質別予算予算の内訳

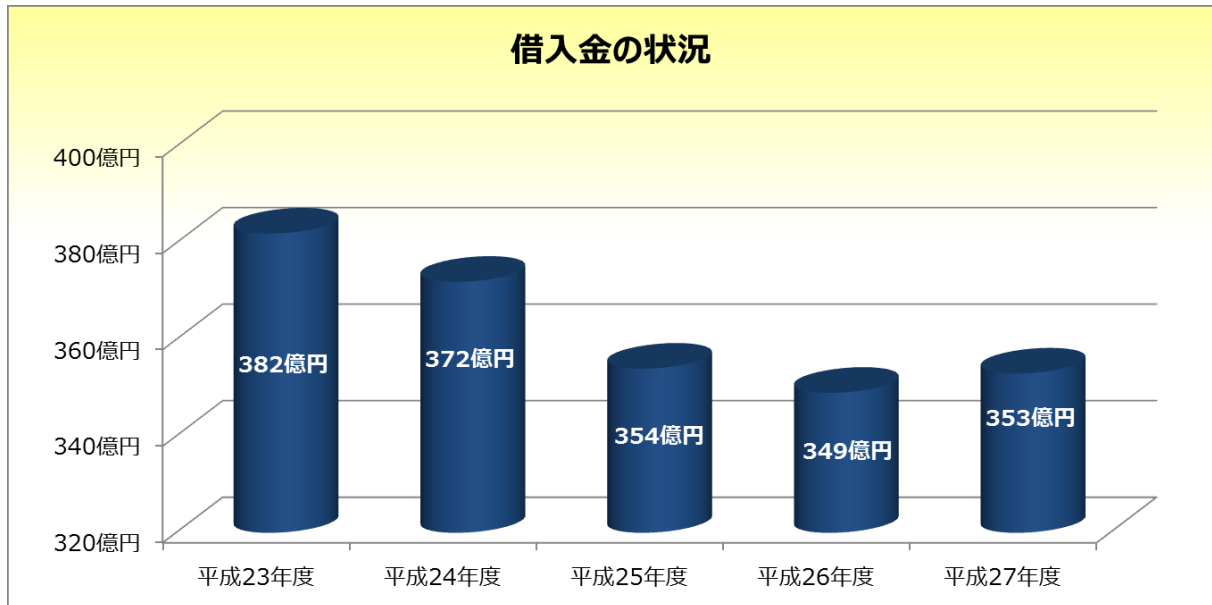


性質別の分類

- ・ 人件費・・・・・・・・職員給与、議員報酬など
- ・ 扶助費・・・・・・・・福祉、医療、給付金など
- ・ 公債費・・・・・・・・借入金の返済金
- ・ 普通建設事業費・・公共施設の改修や建設の費用
- ・ 物件費・・・・・・・・光熱水費、消耗品など
- ・ 補助費等・・・・・・市が交付する補助金など
- ・ 繰出金・・・・・・・・特別会計への繰り出す負担金

◇借入金（市債）の状況

借入金（市債）は、学校、道路、下水道などの公共施設を整備する場合などに借り入れをしています。近年は、借入を抑制していることから残高は減少傾向にあります。

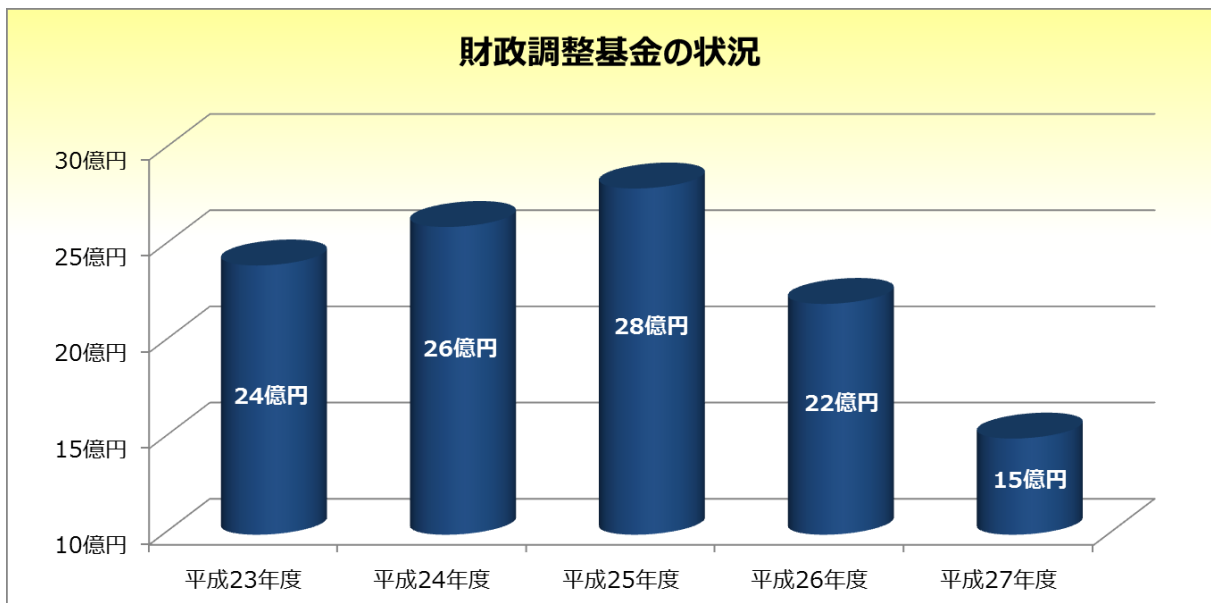


※全ての会計の借入金の残高に、債務負担行為額（将来の債務予定額）を加えています。

※平成26年度及び平成27年度の残高は見込みです。

◇財政調整基金の状況

災害などの不測の事態や多額の支出を伴う事業を行う場合に備え、預金（財政調整基金）を積み立てています。



※平成26年度及び平成27年度の残高は見込みです。

◇財政状況を「家計」に例えると

市の財政について、より身近に感じていただくために、今年度の市の予算を年間の収支が500万円の家計に例えて表しました。

1年間の家計簿			
<収入>		<支出>	
給料 (市税・使用料・財産収入など)	242万円	食費 (人件費)	78万円
親などからの援助 (地方交付税・国県支出金など)	197万円	借入金の返済 (公債費)	39万円
貯金の取崩し (基金からの繰入金)	19万円	医療費 (扶助費)	134万円
銀行からの借り入れ (市債)	42万円	自宅の増改築費 (普通建設事業費、維持補修費など)	55万円
		光熱水費、電話代 (物件費)	74万円
		子どもへの仕送り (繰出金)	49万円
		町会費、サークル活動の会費など (補助費等、投資及び出資金、貸付金など)	70万円
		貯金 (積立金、予備費)	1万円
計	500万円	計	500万円

※わかりやすさを優先しているため、正確な意味や内容と異なる場合があります。